ISSN 2186-5647

5-34

街並みの再編と公共建築のあり方

－台北市におけるパブリックスペースの探求その 1－

日大生産工（院）　○豊留　佑依　　日大生産工(院)　　今村　昂広
日大生産工（院）　　小暮　亮太　　日大生産工　　篠崎　健一

1　はじめに

本稿は、日本大学生産工学研究科における生産工学特別実習の科目において行われた中國科技大学での2週間の実習によって得られた知見を記す。実習は本学の大学院生3名が参加し、台湾における人々の生活と公共的な空間について探索する事を大きな実習テーマとし、人にとって建築とはどのような存在か、建築は街並みに対してどうあるべきか、これから建築に携わるであろう技術者になる前に考える。

2　研究の目的

本稿は台北市の北部に位置する北投地区(Beitou dist)を対象とし、これからの公共建築において敷地の風土や歴史がより密接にデザインプロセスと関わるべきであると提案する為の事例研究として考察する。

2-1 調査方法

2014年8月25日～9月7日において中國科技大学の先生方が引率し、主に台北市内にて様々な建築を拝見させて頂いた。北投地区には8月27日に訪れ、建物の見学や、街を歩きながら台北市における歴史についてご指導をして頂いた。

3　北投地区(Beitou dist)

3-1北投の歴史

1894年ドイツ人硫黄商人オウリーが温泉を発見し、温泉クラブとして建設が開始された事が北投温泉の始まりである。北投地区に道路や鉄道など整備され、病院や小学校等の公共施設が生まれ、町へと発展する。後に、北投温泉は東南アジア最大の公共浴場として建設されるが、時代の移り変わりと共に浴場の活気は失われ、廃れてしまう。1994年北投小学校の教師と児童たちが郷土学習でこの荒廃した公共浴場を発見し、浴場を守ろうと陳述書を書いた結果、1997年内政部により第三級古跡に指定された。修復を経て現在は「北投温泉博物館」として再開発され、北投は有名な温泉街である。

(北投温泉街: 北投温泉博物館パンフレット)

3-2公共施設と街との関係性

a.　北投温泉博物館

北投地区の歴史や公共浴場としての雰囲気と建築様式を再現している博物館である。

下足札で入場し、大小様々な浴場を肌で感じながら歴史を辿る事のできる展示物が並んでいる。大勢の人々が賑わい、楽しむ風景を想像できる博物館である。敷地は北投温泉街の中心に位置しており、北投の象徴的な建築物であった。

(写真左: 北投温泉博物館　写真右:北投文物館)

b.　北投文物館

1921年に高級温泉旅館「桂山旅館」として日本家屋の美しい形を今も残しつづけている文物館である。日本家屋の中に台湾民芸品や原住民芸術が展示されている風景は日本統治時代の歴史を感じた。敷地は地熱谷より高い位置にあり、北投温泉街を見下ろす位置であり、気品のある佇まいであった。

c.　台北市立図書館　北投分館

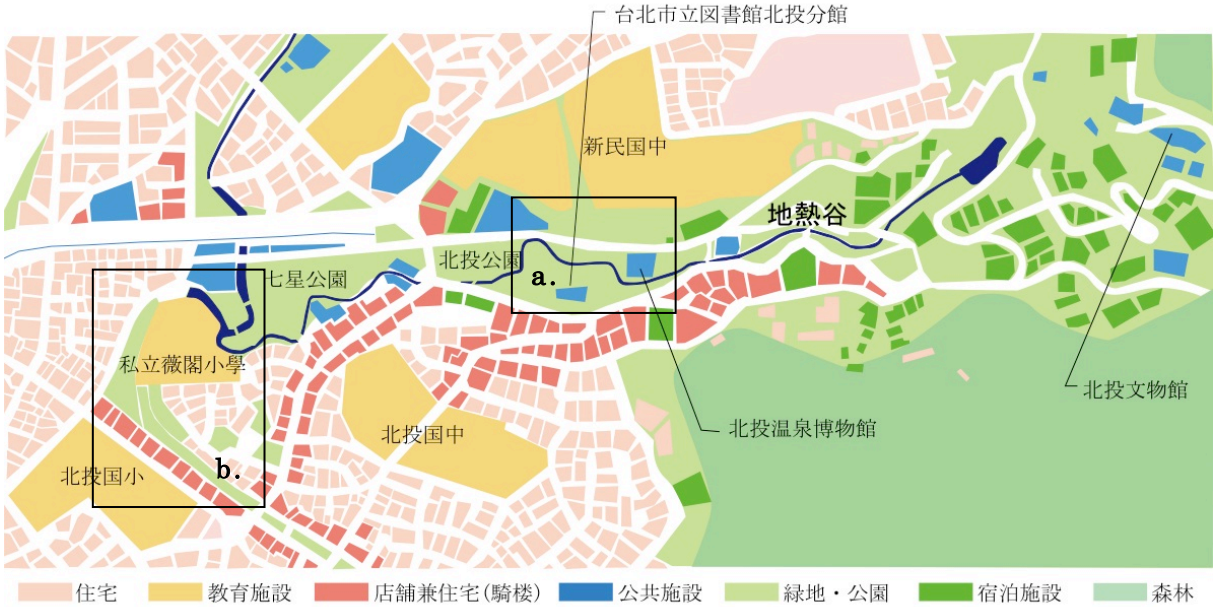
北投温泉博物館の前方に建っている木目を基調とした地下1階、地上2階建ての図書館である。

周辺の雰囲気とは違い、地域住民の為の本と交わる空間となっていた。階層ごとに学ぶ形態やスケールが異なり、それぞれの読み方や環境に応じて自らが移動し、幅広い年代の人々が学ぶ風景であった事が強く印象に残る。外観から見えるテラスは森に囲まれているが開放的で、太陽が反射してぼんやりとした柔らかい光が心地いい空間で、休憩や軽食を食べる風景であった。

(写真左:温泉博物館からみた外観　写真右：二階テラス)

Way of Streers Restructuring and Public Buildings
－　The Pursuit of the Public Space in Taipei Part 1　－

Yui TOYOTOME, Takahiro IMAMURA , Ryota KOGURE and Kenichi SHINOZAKI



3-4北投温泉街の要素

配置図の情報をもとに以下の事柄がわかる

1. 地熱谷の流れに沿って公共施設が点在している
2. 公共施設を囲む様に教育施設が存在している

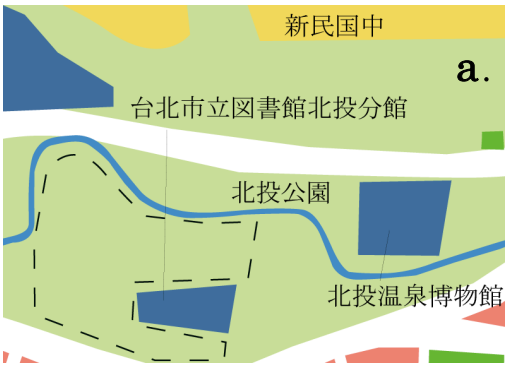
実際に拝見した情報をもとに以下の事柄を抽出する

3. 北投博物館や北投文物館は街の歴史を保存し、継承するための歴史的背景であった
4. 公共施設は外部への公共性がなく、観光地する風景が多くみられた
5. 台北市立図書館北投分館において、地域住民で溢れる程の公共性が存在していた

上記の要素により、地熱谷に観光の軸ができてしまうことは街が分断され、観光地として外部に開いた街を形成してしまうのではないだろうか。このことから図書館や教育施設は街へ開くことなく、一つの建築として完結してしまうであろう。

4　考察

a. 図書館を開放し周辺地域との関係性を構築する



地域住民の学ぶ場として公共性が溢れている台北市立図書館を街へ開くことによって周辺の教育施設は学ぶ施設としての領域を広く拡大できるのではないだろうか。例えば、台北市立図書館の北側広場は芝生が多い茂る広場でしかない。この広場がテラスへと変化し、本と交わる空間を広げる事で、歴史的背景の中で学ぶ空間が生まれる。北側にある新民国中は図書館を見下ろす位置に建っている為、視覚的なつながりを持つ環境も構築する事ができる。

b. 七星公園を拡張する事により、教育施設を緩やかにつなげる

七星公園の東側には私立薇閣小學、南側には北投国小がある。私立薇閣小學は地熱谷によって分断されているが現時点で視覚的なつながりは持つ。しかし、北投国小では高低差があり、道路と商店を隔てている為、つながりは薄い。したがって七星公園と私立薇閣小學の公園と長安公園をつなげることで教育施設の領域の中で大きなスペースを確保し、大きな広場は周辺領域を緩やかにつなげる事ができる。

5　まとめ

北投地区は歴史的背景を保存し、周辺を教育施設が囲っているという土地にも関わらず、観光地のような風景となってしまっていた。一つずつの建築は密集することで街になり、都市へと発展する。したがって地域住民をつなぐ為に、公共建築は街の再編にとって欠かせない存在であり、強い関係性を構築する手楯となるべきであると考える。

6　謝辞

この度は中國科技大學の吳東昇先生、陳主惠先生、徐淵靜先生、周世璋先生、孫啓榕先生、陳玉燕先生、顔敏捷先生に台湾を案内していただくとともに、専門的な視点からご指導をしていただいた事、ここに感謝の意を表します。また通訳として同行して頂いた張宸瑋君、魏宏展君、張美波さん、沈芸安さん、羅新琨君、林檻堽君には、学習の理解の助けとなり、深い交友関係を構築できた事を感謝している。

参考文献

1)『北投温泉博物館パンフレット』日本語版、台北市政府文化局